

## 45. クス育種の基礎研究(第6報)

### 一 接 木 試 験 一

しょう脳試験場 倉田 隆・甲斐 正

ここ数年来クスの接木を、主として切接で、巻縛物は藁を用いて覆土、或はミスで覆つたりして試みて来たが、其の都度不成績に終つていた。しかし昭和29年ビニールテープ及び接ロウを用いたところ、やや見るべき成績が得られるに至つたので、その方法を用い、2、3の実験を行つた処、一応の成果を得たので報告する。

#### 1. 接木の適期

穂 木 No.	4807	4842	4859	4864	4878	計
1 回 の 接 木 本 数	4本	4本	4本	4本	4本	20本
全 接 木 本 数 (9 回)	36	36	36	36	36	180

時期; 1956年2月6日~4月25日

(実験結果及び考察)

第1表 接木時期と活着

接木月日 穂木 No.	接木月日										計	率
	6/II	15/II	24/II	5/III	15/III	26/III	5/IV	16/IV	26/IV			
4807	0本	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1本	2.7%
4842	0	0	0	1	0	0	3	2	0	0	6	16.6
4859	0	0	0	1	1	2	1	0	1	0	6	16.6
4864	0	1	0	1	0	1	3	2	0	0	8	22.2
4878	1	0	0	1	0	0	1	1	0	0	4	11.1
計	1本	1	0	4	1	4	8	5	1	0	25本	
率	5%	5	0	20	5	20	40	25	5	0	13.8%	

(1956年7月16日調査)

第1表によれば活着成績は平均13.8%で、3月5日より4月16日までの活着率は他に比べて良好で23%であつた。勿論活着率としては満足すべき結果ではないが、大体クス接木の時期を推定する事が出来る。即ち3月上旬より4月中旬の約40日間が適期と思われる。この時期は台木の樹液の流動を開始した時期でもある。2月中の接木はあまりにも早過ぎ、穂が台木の活動開始まで保水する事が出来ず、又4月下旬になると穂木も台木も新組織を形成し始め、接合面の組織がこわれ易いため不適当と思われる。

#### 2. 接穂の種類と活着

(実験方法)

(実験方法)

接穂; 日本専売公社しょう脳試験場常安試験林地に生育中のホウショウ (*C. Camphora* Sieb. var. *linaloolifera* fujita) 5個体(9~1年生)より採取

台木; 同常安試験林地に生育中の9~6年生ノウショウ (*C. camphora*)

方法; 切接, ビニールテープ, 接ロウ(松脂2:木ロウ1:蜜ロウ1:豚脂0.5)使用

接穂; 坂元試験林地に生育中の樹令17年生ホウショウ(壮令木), 常安試験林地に生育中の(9~1年生)ホウショウ(萌芽1年生), 本場苗圃に生育中のホウショウ(実生1年生)よりそれぞれ採取

台木; 本場苗圃に生育中の5~1年生クス(*C. camphora* Sieb.)

方法; 切接, ビニールテープ, 接ロウ(1と同じ)使用

本数;	穂	壯令木	萌芽 1年生	実生 1年生	計
	本 数		50本	50	50

(実験結果及び考察)

第2表 穂の種類と活着

穂の種類	壯令木	萌芽1年生	実生1年生
活着本数	1本	1本	15本
活着率	2%	2%	30%

壯令木、萌芽1年生より採取したものはわずかに1本活着したのみであつたが、実生1年生のものは15本、30%の活着を示した。活着率に大きな開きがあり壯令木、萌芽のものより実生1年生は活着し易い傾向がある。

3. 切接と剝接との比較

第3表 接ぎ方と活着

穂木 No.	接木方法		切				剝			
	接木	方法	26/Ⅲ	6/Ⅳ	16/Ⅳ	計	26/Ⅲ	6/Ⅳ	16/Ⅳ	計
4807			0本	1本	0本	1本	1本	1本	1本	3本
4842			0	1	0	1	3	1	0	4
4859			0	1	0	1	3	3	2	8
4864			1	0	1	2	1	0	0	1
活着本数			1	3	1	5本	8本	5	3	16本
活着率			5%	15	5	8.3%	40%	25	15	26.6%

切接の活着率8.3%、剝接は26.6%と剝接が3倍強の活着率を示した。尚、剝接において3月26日40%、4月6日25%、4月16日15%と活着率の低下したのは、当地方におけるクスの樹液流動開始が3月20日前後であり、3月26日頃は漸く樹皮が剝げる頃に剝ぎ過ぎると云う事がなく、4月16日となると樹液の流動も活発となり剝ぎ易く、必要以上に剝げるので斯様な結果になつたものと思われる。しかしながら本成績より判断するに切接よりも剝接の方が活着し易いようである。この結果より考えるに切接は剝接よりも技

(実験方法)

接穂；1と同じホウショウ4個体より採取  
台木；坂元試験林地に生育中の6~4年生ノウショウ

方法；切接、剝接、ビニールテープ、接ロウ（1と同じ）使用

穂木 No.	4807	4842	4859	4864	計
本数；切接	15本	15本	15本	15本	60本
剝接	15	15	15	15	60

時期；1956年3月26日~4月16日

(実験結果及び考察)

術がむづかしいのではないと思われる。

むすび

以上の試験成績によつても判る通り、活着率は低くまだまだ実用の域には遠く第一歩を踏みだしたばかりであるが、一般にクスの接木適期は3月上旬から4月中旬の約40日間であり、穂の種類では実生1年生苗より採取したものが最も良く、接ぎ方では切接より剝接の方が良いと云う結果が得られた。

46. セコイアの挿木に於ける2,3の要因に就いて(第1報)

福岡県林試 中島 莞爾・西尾 敏

1. 試験方法

(i) 土壌差—Humus Soil (Clayey Loam 圃場の土壌) Red Soil 及び Sand を用いたが、これらの

風乾物重量を基準に Humus/Sand・Soil/Sand・Red. S/Sand の各比を5:5として1/20,000 Wagner Pot に常法の割合に礫・砂を入れ、3種の供試土壌は1 Pot に10~12kg づつ詰めた。使用した Pot 数は